

【資料４】

専門的な救急医療体制の検討に係る今後の対応方針について

1 専門的な救急医療体制の検討に係る検討経過について

【循環器疾患】平成３０年７月４日検討会での対応方針（抜粋）

- ・従来どおり４病院でカテーテル治療が実施可能であり、当面は現体制が維持できる。
 - ・当番制や病院間の医師の応援体制については不要であり、病院間の連携で対応する。
 - ・高齢者の心不全患者の退院支援体制の強化を図る方法を検討する。
 - ・特に高齢者の ACP の概念の普及がさらに必要である。
 - ・カテーテル治療が可能な医師の派遣や確保に関する中長期的な要望については、県立中央病院と鳥取赤十字病院の機能分担と連携のあり方と合わせて検討が必要である。
- ※鳥取市立病院、鳥取生協病院は医師の増員の予定がある。

【脳血管疾患】平成３０年７月２５日検討会での対応方針（抜粋）

- ・カテーテル治療の搬送件数が減少しているが、３病院可能な限りカテーテル治療を実施し、困難な場合は域外搬送を行う。
 - ・事前に分かっている救急対応困難な日程については、従来どおり医師間の連絡で対応する。
 - ・東部圏域にカテーテル治療の拠点を作るのか、t-PA センターの役割をとるのかなど将来的なあり方に基づく人員等の要望を検討する必要がある。
- ※脳血管のカテーテル治療の専門医は県内で５人のみである。

2 専門的な救急医療体制の検討に係る今後の方針（案）について

急性期病院の各病院長へ面会による事前相談を以下のとおり実施

【日 時】平成３０年１１月１５日（木）午前１０時～午後２時３０分

【場 所】各病院（①県立中央病院⇒②鳥取赤十字病院⇒③鳥取市立病院⇒④鳥取生協病院）

【内 容】以下のとおり

領 域	対 応 方 針（案）
循環器疾患	カテーテル治療については当面は体制維持が確保できるが、新たな課題である高齢者の心不全の対応を協議するため、急性期に従事する医師のみの検討会を拡大し、回復期、慢性期（療養病床等も含む）及び在宅医療等の分野の医師等も含め心不全の地域連携等に関する検討を継続する。
脳血管疾患	カテーテル治療は可能な限り圏域の３病院（①③④）の脳外科医３名で対応するが、今後、域外搬送の体制を圏域内で検討していく必要があり、ひとまず域外搬送実績があり、脳卒中センターを整備している県立中央病院を中心に、例えば他病院に搬送された患者も中央病院経由で域外搬送するなど、t-PA センターの役割による域外搬送のための体制を検討する。